

山縣市地域公共交通網形成計画(案)【概要版】

■ 事業の実施スケジュール

取り組む事業は、次の実施スケジュールに基づき行います。

事業		H30	H31	H32	H33	H34	H35	実施主体	
路線再編事業	新バスターミナル設置に伴う路線再編								
	岐阜大学病院路線の運行	—検討・協議→	■					市・交通事業者	
	市街地循環路線の運行	—検討・協議→	■					市・交通事業者	
	美山地域の運行形態の変更	—検討・協議→	■					市・交通事業者	
	JR岐阜までの快速便の導入	—検討・協議→	■					市・交通事業者	
バスターミナル整備事業	駐車場、駐輪場等の整備	—整備→	■					市	
	バスロケーション機器の設置	—整備→	■					交通事業者	
	アユカ自動入金機の設置	—整備→	■					交通事業者	
	観光案内設備の整備	—整備→	■					市	
利用促進事業	公共交通ガイドブックによる情報提供	→ 継続実施(年2回更新)							市・公共交通会議
	地域バス調整会議等の開催	→ 随時実施(年5回以上)							市民・市・交通事業者
	企画乗車券の発行	→ 随時実施(年2回以上)							市・交通事業者
	バスヘルパーの継続・拡充	→ 継続実施(毎週月曜日)							市民・市
	モビリティマネジメント	■		■			■		市・市民・交通事業者

■ 事業の実施スケジュール

- ・本計画に掲げる施策を着実に実施し、目指す将来の姿を実現するため、次の評価指標と目標値を設定します。
- ・各事業の実施事業や評価指標の達成状況は、市民や交通事業者、学識者等で構成される公共交通会議で評価、検証を行います。

項目	評価指標	基準値	目標値(H35)
公共交通の利用状況	年間乗車人数	(人/年) 184,371 (H28)	199,500
	利用者1人あたりの運行経費	(円/人) 851 (H28)	800
	1便あたりの乗車人数	(人/便) 6.0 (H28)	6.0
交通結節点の利用状況	バスターミナルの乗降者数	(人/日) 277 (H27)	320
	パーク&バスライド利用者数	(人/日) 50 (推計値)	60
	サイクル&バスライド利用者数	(人/日) 23 (H28)	30
公共交通に対する意識	バスヘルパー登録者数	(人/年) 11 (H28)	14
	モビリティマネジメント参加者数	(人/年) 37 (H25)	50
市民意識の醸成	地域バス調整会議等の開催回数	(回/年) 3 (H28)	5

お問合せ先

山口市 企画財政課

電話：0581-27-6825, FAX：0581-27-2075

E-mail：kikaku@city.gifu-yamagata.lg.jp

■ 計画策定の趣旨

本市では、市民の移動手段を確保するため自主運行バスを運行してきましたが、利用者の減少や路線維持費の増加に伴う営業路線の撤退により、バスネットワークの崩壊が懸念される状況にあります。そこで、平成25年度にはバスネットワークを維持・継続していくために「山口市公共交通総合連携計画」を策定し、市民、市、交通事業者が連携を図り、各種事業に取り組んできました。

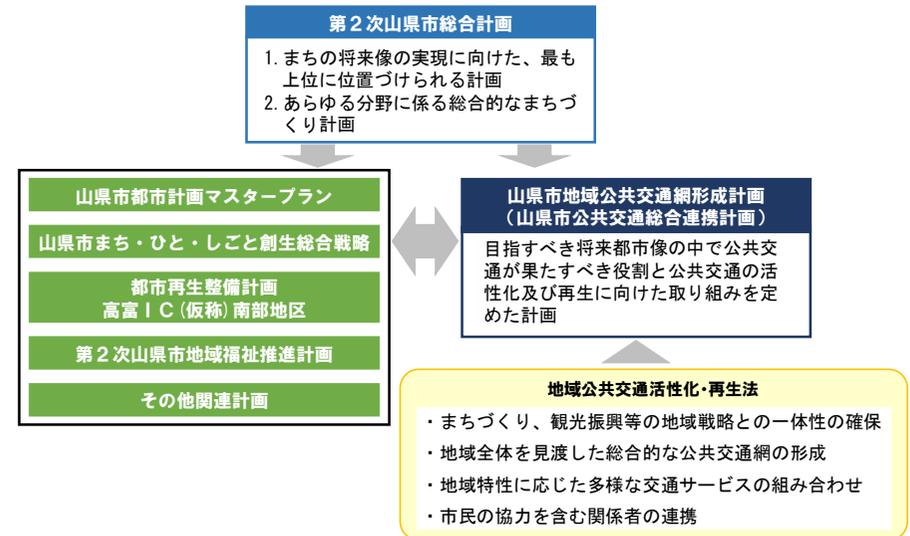
また、平成31年度に開設予定の東海環状自動車道 高富IC(仮称)は、将来の交通の拠点として市の発展に重要な役割を果たすことが期待されています。その隣接地には、まちの特産品や観光資源を活かしてひとを呼び込み、地域にしごとを創出するための地方創生拠点の核として、バスターミナルの整備を計画しています。そのため、バスターミナルの整備に伴い変更される交通拠点に対応して、現在の公共交通網の再編が必要となっております。

そこで、山口市公共交通総合連携計画を踏襲しつつ、さらに、バスターミナルを核としたまちづくりを視野に入れた「山口市地域公共交通網形成計画」を策定します。

■ 計画の位置付け

山口市地域公共交通網形成計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき作成されるものです。地域公共交通の基本方針と目標を整理し、まちづくりと連携した取り組みを明確化したものであり、持続可能な公共交通網の形成に向けたマスタープランとなります。

策定にあたっては、「第2次山口市総合計画」をはじめとした、上位計画・関連計画に示されるめざす将来の姿や基本理念、目標と整合を取りつつ、「山口市公共交通総合連携計画」における取り組みの評価を踏まえるものとしします。



■ 対象区域・計画期間

- ・計画区域は、「山口市全域」とします。
- ・計画期間は、上位計画である第2次山口市総合計画の計画と整合を図るため、「平成30年度～平成35年度」の6年間とします。

■ 路線再編事業の概要

新バスターミナルの整備計画にあわせて、市内および市と隣接市とを結ぶ公共交通を新バスターミナルが拠点となるよう再編することで、**ネットワーク型コンパクトシティの実現**を目指します。また再編により、新バスターミナルに市内外の人が集まることで、にぎわいが生まれるとともに、観光振興や交流促進にもつながります。

そのために、

- ・岐阜駅方面とつながる現在のバス路線は維持
- ・利便性向上のため、新路線の運行や運行形態の変更
- ・市内を運行する既存路線は、起終点为新バスターミナルになるよう一部見直しを実施します。

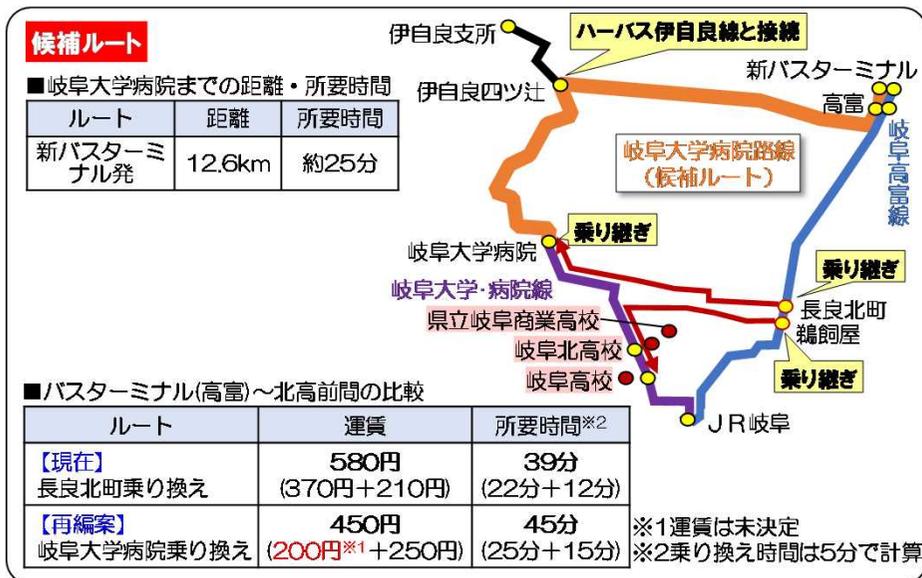
新バスターミナルでは、乗り継ぎ利用者が多数発生することから、乗り継ぎ待ち時間を快適に過ごすための待合スペースの整備や、ダイヤ調整、乗り継ぎ割引運賃などによるシームレス化（乗り継ぎ・接続の利便性向上）を図ります。

新規路線の運行

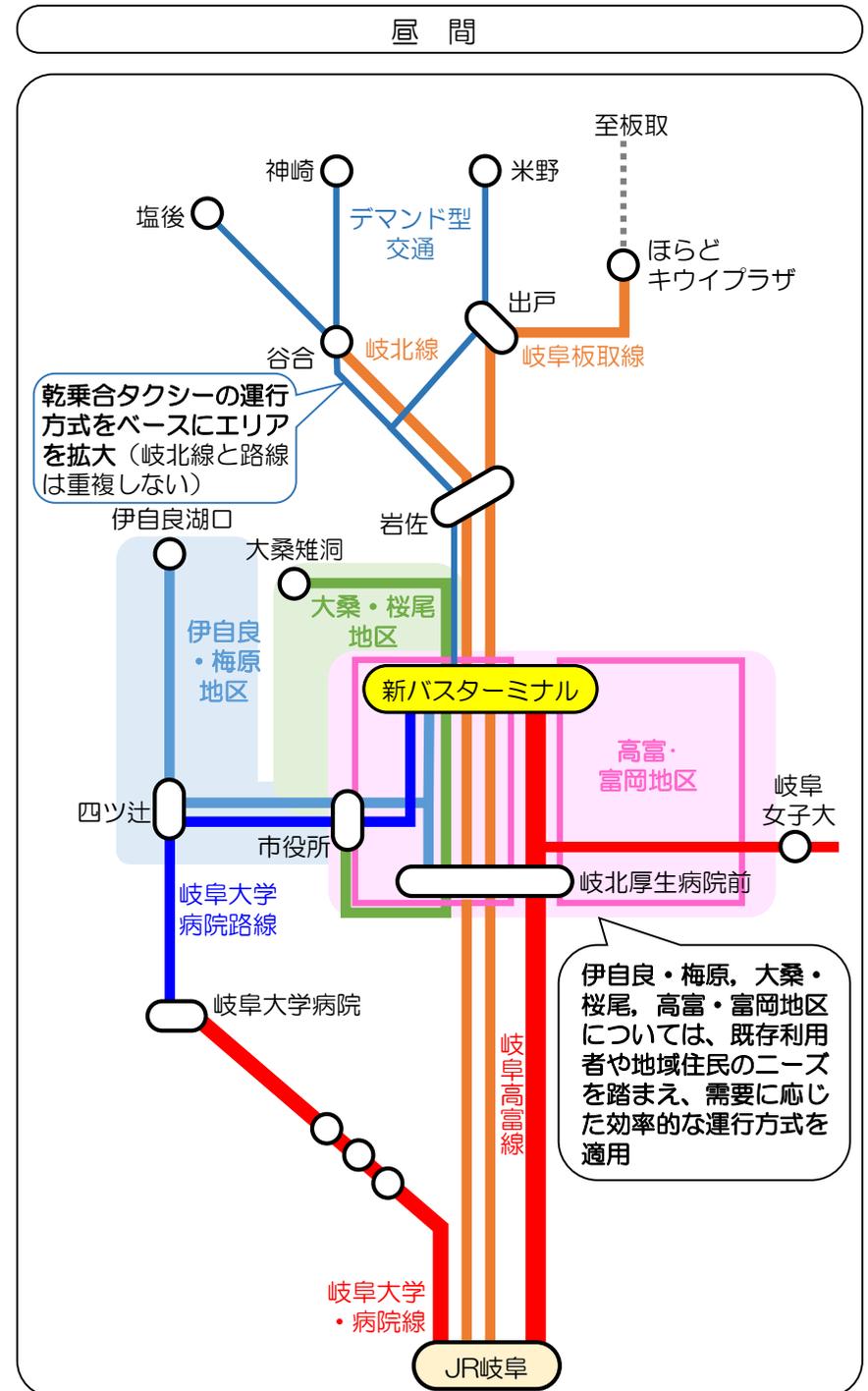
① 岐阜大学病院路線

- ・新バスターミナルの開設にあわせて、新バスターミナルから岐阜大学病院へ向かう路線を新設します。伊自良地域からは、ハーバス伊自良線と岐阜大学病院路線を伊自良四ツ辻で乗り継げるように調整することで、伊自良地域の住民も利用できるようにします。
- ・新バスターミナルから岐阜大学病院への直行便を運行することで、特に忠節橋方面への通学や、岐阜大学病院への通院等の利便性向上を図ります。
- ・また、伊自良地域は従来から岐阜方面との結びつきが強いことから、本路線の運行により伊自良地域の活性化にもつながると考えられます。

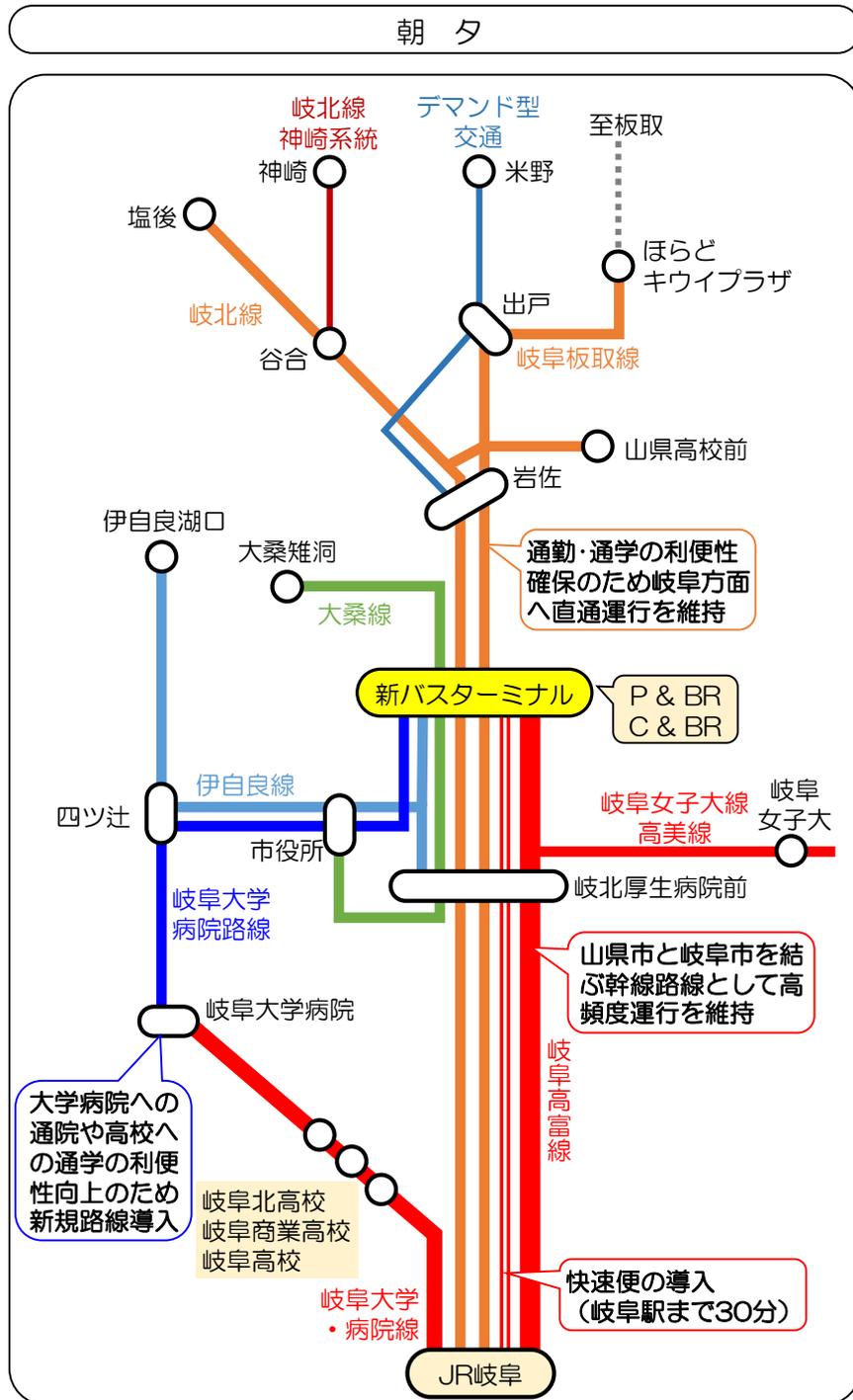
【実施主体】市・交通事業者



岐阜大学病院路線の運行イメージ



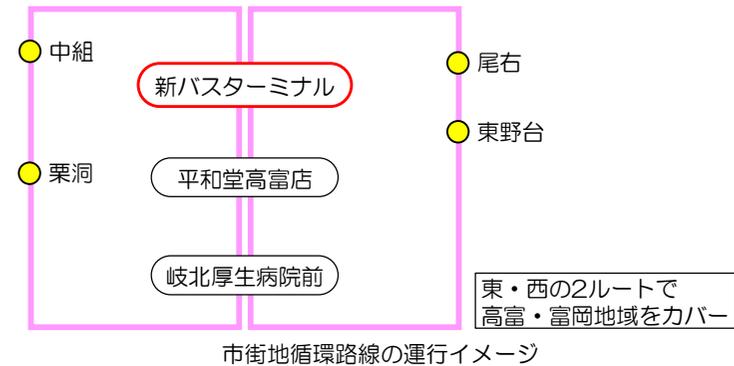
■ 将来の公共交通ネットワーク イメージ図



②市街地循環路線

- ・新バスターミナルを発着地として、高富・富岡地域内を循環する路線の運行を検討します。
- ・高富・富岡地域内に立地する商業施設や医療施設などの日常生活に必要な施設へのアクセスを向上させるとともに、地域内に存在する公共交通未カバーエリア（東野台など）への対応を図ります。
- ・また、高富・富岡地域だけでなく他の地域からも、新バスターミナルから市街地に点在する医療施設や商業施設への移動利便性が向上します。

【実施主体】市・交通事業者



③美山地域の運行形態の変更

- ・需要規模と市民ニーズにあったサービスを提供し、かつ運行効率化を図るため、美山地域全体を1つのエリアとする、デマンド型交通の運行を目指します。
- ・また、デマンド型交通に変更することで、使用する車両の小型化を図ります。
- ・デマンド型交通の運行にあたっては、自家用有償旅客運送も想定して検討を進めます。

【実施主体】市・交通事業者

④JR岐阜までの快速便の導入

- ・JR岐阜方面とつながるバス路線は、都市間の移動を担い、通勤・通学をはじめとした様々な目的で利用されています。
- ・通勤・通学時間帯は、特に定時性・速達性が求められますが、道路渋滞や停留所での乗降などにより遅延が発生しやすくなっています。
- ・JR岐阜駅までの速達性・利便性を向上させるため、停車するバス停を限定して運行する快速便の導入を交通事業者に要請していきます。

【実施主体】市・交通事業者

■ 山県市地域公共交通網形成計画(案) 骨子

連携計画からの課題

【美山地域】

- サービス改善に伴う利用者数の増加はあまり多くない
⇒地域にあった運行形態への変更が必要

【伊自良・梅原地区、大桑・桜尾地区】

- 商業施設の乗り入れ等により、利用者は増加傾向
- 高頻度利用者も多く、各地区の公共交通として定着しつつある
- 一方、デマンド型交通導入を望む声もある
⇒定時定路線型の運行を継続しつつ、デマンド型交通導入については引き続き検討

【高富・富岡地区】

- 公共交通不便地区への対応（新規路線）が未実施
- 商業施設や医療施設への移動ニーズは高い
⇒区内をカバーし、買い物や通院に利用できる新規路線が必要
デマンド型交通導入については引き続き検討

【利便性向上・利用促進に向けて】

- 市民自らが主体となった公共交通に関する検討
- 市内外に対する、観光も交えた定期的な情報発信

地域及び地域公共交通の現状からの課題

課題1 多様なニーズへの対応

■ 通勤・通学ニーズにあったサービスの提供

- 朝夕を中心とした利便性の高いサービスの提供
- 山県高校～JR岐阜間の路線（運行本数）の維持

■ 高齢化の進行を見据え、買い物・通院等の移動ニーズに配慮したサービスの提供

- 高齢者の移動需要に対応した運行ダイヤや停留所設置による利便性向上
- 公共交通カバーエリア拡大のための既存路線の見直し、新規路線の導入

課題2 まちづくりとの連携

■ 拠点間のネットワークの構築

- 新バスターミナル整備に合わせた、公共交通ネットワークの再編

■ 観光需要への対応

- 誰にでも分かりやすい公共交通ネットワークの構築
- 新バスターミナルにおける観光情報の発信

課題3 持続可能な公共交通の確保

■ サービスレベルと需要規模の不整合の解消

- 利用者ニーズと需要規模にあったサービスの提供による運行効率化

■ 需要と車両サイズの不整合の解消

- 地域の需要規模にあった車両の導入（変更）

課題4 市民意識の向上

■ 市民に対する公共交通の周知・親しみの向上

- 公共交通利用に関する基本的な情報の周知
- 公共交通の認知度を高め、公共交通の利用に対する心理的なハードルを解消

■ 地域への帰属意識の醸成

- 市民が主体となり、公共交通について考える組織体制の強化

基本方針

どの世代においても住みよい、便利で快適なまちを実現する地域公共交通体系の構築

地域公共交通の役割

- | | |
|----------------------|---------|
| 1 市民の日常生活における移手段の確保 | 目標 1 |
| 2 ネットワーク型コンパクトシティの実現 | 目標 2 |
| 3 にぎわい創出・健康増進支援 | 目標 2, 3 |
| 4 観光振興・交流促進支援 | 目標 2, 3 |

目標1 多様なニーズ・需要に応じたサービスの提供

- 岐阜・名古屋方面への通勤・通学に対応するため新規路線の運行や快速便の導入
- 山県高校～JR岐阜への直通便（運行本数）の維持
- 高齢者等の買い物・通院等需要に対応するための、現状サービスの維持及び新規路線の運行
- 持続可能な地域公共交通の構築（継続的な運行）

評価指標 1 公共交通の利用状況

- 年間乗車人数
- 乗車1人あたりの運行経費
- 1便あたりの乗車人数

目標2 まちづくりと連携した、新バスターミナルを拠点とするネットワークの構築

- 新バスターミナルを拠点とした地域公共交通の再編（日常生活だけでなく観光などにも利用できる）
- 乗り継ぎ利便性向上のための施設整備及び運賃面やダイヤ面でのシームレス化
- 新バスターミナルの観光・交流拠点化のため、観光等の情報提供の充実

評価指標 2 交通結節点の利用状況

- バスターミナルの乗降者数
- パーク&バスライド利用者数
- サイクル&バスライド参加者数

目標3 誰もが分かりやすく、安心して利用できる公共交通の充実

- 市内外に向けて、広く公共交通の情報提供を実施するため、ガイドブックの作成・配布
- 利用促進および利用のきっかけをつくるため、モビリティマネジメントや体験乗車会などの企画・実施
- 高齢者等が安心して利用できるようにするため、バスヘルパー制度の継続・拡充

評価指標 3 公共交通に対する意識

- バスヘルパー登録者数
- モビリティマネジメント参加者数

目標4 多様な主体の連携により、地域全体で公共交通を支える体制の推進

- 地域全体で公共交通を支える体制の強化・拡充のため、市民、市、交通事業者が参加する地域バス調整会議の定期的な開催

評価指標 4 市民意識の醸成

- 地域バス調整会議等の開催回数

路線再編事業

- 新バスターミナルを拠点とする路線への再編
- 新規路線の運行
 - 岐阜大学病院路線の運行
 - 市街地循環路線の運行
- 美山地域の運行形態の変更
- JR岐阜までの快速便の導入

バスターミナル整備事業

- 駐車場、駐輪場の整備
- 待合スペースの整備
- のりば案内・路線案内表示の設置
- バスロケーション機器の設置
- アユカ自動入金機の設置
- 観光案内設備の整備

利便性向上・利用促進事業

- 乗り継ぎ割引運賃の適用
- 乗り継ぎを考慮したダイヤ設定
- 公共交通ガイドブックによる情報提供
- 企画乗車券の発行
- モビリティマネジメントの実施
- バスヘルパーの継続・拡充
- 地域バス調整会議の開催